

地域農林経済学会ニュースレター No.8 (2016年9月30日発行)

★ Contents

(1) 『農林業問題研究』第52巻第3号(第203号)の発刊案内

- ① 第52巻第3号：目次 ② 近畿支部大会報告
③ 編集後記

(2) 大会に関するお知らせ (付) 大会個別報告プログラム一覧

(1) 『農林業問題研究』第52巻第3号(第203号)の発刊案内

『農林業問題研究』第52巻第3号が発刊されます。J-STAGE上で閲覧ください。閲覧方法はこの項目の末尾を参照ください。

① 『農林業問題研究』第52巻・第3号：目次

<研究論文>

Comparative Advantage and Cost Efficiency of Rice-Producing Farms in Bangladesh: A Policy Analysis
Mohammad Ariful Islam

昭和恐慌からの回復期における農家の教育・医療支出
草処基・丸健・高島正憲

<個別報告論文>

離島移住者の定住志向とその要因
霜島小夜子・大江靖雄

特産品開発における地域固有性の獲得プロセス
國吉賢吾・中塚雅也

消費者との連携による都市農業の保全と課題

—東大阪市のエコ農産物特産化とファームマイレージ2運動—
中塚華奈

水産養殖産地における自発的販売組織の展開と産地再編

—愛媛県宇和島市蔭渕地区の調査結果から—
矢野邦子・香月敏孝・山藤篤

地域と継続的に関わる地域おこし協力隊出身者の特性と活用
柴崎浩平・中塚雅也

数理計画モデル分析における気象リスク評価方法の拡張に関する一考察

—気象リスクを考慮した水稲乾田直播栽培の経営的評価を事例として—

孫雯莉・大石亘・ルハタイオパット ブウォンケオ・松下秀介

時間主導型活動基準原価計算による環境保全型家族農業経営の農産物別環境原価の算出

家串哲生

将来の人口減少が品目別食料自給率に与える影響分析

廣瀬拓・赤堀弘和・近藤功庸・澤内大輔・山本康貴

カナダにおける農業経営改善支援プログラムの新たな展開 —オンタリオ州およびサスカチュワン州を事例として—	内山智裕
牛肉の購買行動における消費者意識構造の把握 —共分散構造分析を用いた解析—	長命洋佑・広岡博之
高齢者の孤食状況とその要因 —社会生活基本調査の匿名データを使用して—	金子治平・花田麻衣
日系ビールメーカーの中国国内販売戦略に関する事例分析 —中国特有の商慣習問題への対応を中心に—	金子あき子・大島一二
中国の都市化地域における農村基層組織の機能低下と観光経営体の役割 —北京市怀柔区官地村と北溝村を事例として—	高田晋史・中塚雅也・王橋
中国の農村労働力に対する非農業職業教育の実態 —安徽省臨泉県職業高校の事例から—	劉飛・竹歳一紀
固定価格買取制度以降の中国地方の小水力発電の展開	本田恭子・三浦健志・松岡崇暢・岩本光一郎

<書評リプライ>

『SNSを活用した農山村地域コミュニティの再構築』（評者：内平 隆之） 鬼塚 健一郎

② 近畿支部大会報告

近畿支部第33回大会（2016年7月23日、於：神戸大学農学部）

石田 章（神戸大学農学研究科）

1. はじめに

第33回地域農林経済学会近畿支部大会は、2016年7月23日（土）12:00～17:00に、神戸大学農学部において開催された。

近畿支部大会では、本学会全体の活性化を期するとともに、とくに若手研究者の研究活動を支援することを意図して、発表および討論の時間を長めにとる研究会を開催してきた。今年度は新たな試みとして、恒例の若手研究者による個別報告に加えて、共通セッション「若手研究者からみた大学の地域連携—研究と地域連携との両立・節合を目指して—」（司会：本田恭子会員）をランチセミナーとして開催した。この

共通セミナーは、今年度の全国大会において大学の地域貢献と研究とのあり方が議論されることを念頭に置きつつ、地域連携事業の現状や地域農林業研究における地域連携の可能性と課題について、若手研究者を中心に率直な意見交換の場を提供することを意図して行った。

大学院生による個別報告に加えて共通セッションを実施したこともあってか、大学・研究機関の研究者や院生など合計42名の参加があった（昨年度の参加者数は25名）。

開会にあたり、増田佳昭会長からの挨拶があった。詳細なプログラム内容は以下のとおりである。

【共通セッション】若手研究者からみた大学の地域連携—研究と地域連携との両立・節合を指して—

報告 1: 富吉満之 (久留米大学)「地域連携プログラムは若手を鍛える「登龍門」～3大学でのポストドク経験を中心に～」

報告 2: 則藤孝志 (福島大学)「ふくしま未来食・農教育プログラムでの3年間を振り返って」

【個別報告】

報告 1: Ernoiz Antriyandarti (京都大学大学院農学研究科), Constraints of Farm Size Enlargement in Rice Sector of Central Java: A Case Study

報告 2: 中島彬 (京都大学大学院農学研究科)「滋賀県の集落における環境保全型農業実施の要因分析—農地・水・環境保全向上対策の営農活動支援を対象に—」

報告 3: 鈴木淳 (神戸大学大学院農学研究科)「酒造好適米産地の維持・発展要因と課題—兵庫みらい農協を事例として—」

報告 4: 小宮山碧 (京都大学大学院農学研究科)「農地・水・環境保全向上対策の政策効果—滋賀県「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」を対象として—」

2. 報告の概要

【共通セッション】

第1報告「地域連携プログラムは若手を鍛える「登龍門」～3大学でのポストドク経験を中心に～」では、報告者の略歴、これまでの研究内容に関する紹介ののちに、名古屋大学、金沢大学、熊本大学でのポストドク経験について詳細な説明があった。学生・院生時代からの研究内容—植物遺伝や栽培植物起源に関する農学研究、

非営利組織の活動に関する農業経済研究—に加えて、ポストドク時代の地域連携に関する仕事を通じて、研究テーマの多様化や人的ネットワークの拡大、科学研究費の獲得という具体的メリットがあったことが報告された。

第2報告「ふくしま未来食・農教育プログラムでの3年間を振り返って」では、最初に報告者の略歴、これまでの研究内容、京都大学でのポストドク時代に「地域づくり」というテーマと出会ったことなどが説明された。さらに、福島大学において現在かかわっている「ふくしま未来食・農教育プログラム」に関する簡明な説明があったのちに、ときには短期的な成果が求められる「地域連携にかかわる業務」と自身の長期的なキャリア形成と密接に関係する「研究業績の積み上げ」を両立することの困難さ、などについて説明があった。

両報告後に、若手研究者や院生を中心に多くの質問が出され、それを踏まえた活発な意見交換が行われた。そして最後に、中堅・シニアの研究者からの感想・意見が述べられたのちに、司会者の本田恭子会員による総括が行われた。

【個別報告】

第1報告「Constraints of Farm Size Enlargement in Rice Sector of Central Java: A Case Study」では、インドネシアの中部ジャワ州とジョグジャカルタ特別州におけるフィールド調査データを用いて、米農家の規模拡大を阻害している要因が検討された。定量分析の結果、調査地域では規模の経済性が認められること、梶井仮説が成立することが説明された。さらに、余剰労働力や村落所有地 (tanah bengkok) の存在、農地賃貸市場の未発達、大規模経営農家の農地分散化、農地転用への期待が規模拡大の阻害要因となっていることが指摘された。

第2報告「滋賀県の集落における環境保全型農業実施の要因分析―農地・水・環境保全向上対策の営農活動支援を対象に―」では、農業集落カードや滋賀県庁からの提供データを分析することによって、直接支払制度への参加促進・制約要因が詳細に検討された。定量分析の結果から、稲作以外の作目では「地域で一体的に環境保全型農業に取り組む」という要件が制約となっていること、稲作では対象者の要件が制約要因とはならなかった可能性があること、小規模農家の割合が高いことが制約要因となりうること、過去の取組みとの関連性が弱いこと、などが指摘された。

第3報告「酒造好適米産地の維持・発展要因と課題―兵庫みらい農協を事例として―」では、兵庫県が酒造好適米産地としての地位を維持・発展させてきた要因を抽出したのちに、米流通の自由化や「山田錦」に対する需要増を契機とした酒米の流通構造の変化―系統流通の比率減少、商系・相対取引による系統外流通への代替の進行、県内産地から県外産地への代替の進行―という状況を受けて、農協・系統農協の展開のあり方が検討された。その結果、酒造好適米産地の維持・発展を図るべく、系統出荷の優位性訴求を意図したさまざまな取組み―農家に対する生産支援、酒造業者に対する確実な酒米供給や柔軟な取引・契約条件の提示、需給変動を緩和する仕組みの構築、流通体系の合理化など―が重要であることが示唆された。

第4報告「農地・水・環境保全向上対策の政策効果―滋賀県「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」を対象として―」では、農業集落カードや滋賀県庁からの提供データなどを用い

て、滋賀県における農地・水・環境保全向上対策の政策効果が検討された。プロット分析の結果から、都市的地域や小規模農家の比率が高い集落は向上対策への参加確率が低く、反対に水田率や借入耕地率が高い集落は参加確率が高いこと、などが説明された。その後、傾向スコアマッチング法による処置効果の推定結果から、向上対策が資源保全管理に関する共同活動を促進し地域資源の良好な保全に貢献することが明らかにされた。

上述したいずれの個別報告においても、活発な意見交換が行われた。そして最後に、金子治平副会長から閉会の挨拶があった。

3. おわりに

今年度の近畿支部大会では、「若手研究者を中心に率直な意見交換の場を提供する」という意図のもと、若手会員による個別報告に加えて共通セッションを設定した。そのこともあつてか、若手研究者や院生の参加者比率が例年よりも高いように感じた。

最後になったが、共通セッションのテーマ設定や司会者・報告者の選定および依頼などについては、すべて若手研究者・院生を中心に構成されている「若手の会」にお願いした。またご多用のところ、開会あるいは閉会の挨拶をしていただいた増田佳昭会長と金子治平副会長、快く研究報告を引き受けていただいた6名の報告者、共通セッション司会者の本田恭子会員、個別報告の座長の多田稔会員、中塚雅也会員、浦出俊和会員、増田清敬会員をはじめ、支部大会参加者の皆様に厚くお礼申し上げます。

③ 第52巻第3号：編集後記

第52巻第3号は、研究論文2本、個別報告論文15本、書評リプライ1本という内容で発行の運びとなりました。審査員の方々には、特に御礼を申し上げます。個別報告論文の審査も以前に比べてかなり詳細になってきており、それに伴って、審査の過程で大幅な加筆を要求されることも多くなっています。そのためもあって、今年の大会の個別報告論文からは、ページ制限を6ページから8ページに変更することになりました。これに伴い、掲載料も変更されています。大会前提出原稿および大会後の個別報告論文作成時には、学会ホームページに掲載されている個別報告論文投稿要領をよく参照されるようお願いいたします。また、研究論文の投稿も引き続きお願いするところです。大会個別報告からも、研究論文へぜひチャレンジしていただければと思います。(T)

★オンラインでの本誌の閲覧方法

- 1) 「農林業問題研究 - J-Stage」で検索し、上の方に出てくる「[農林業問題研究 - J-STAGE \(Home\)](#)」をクリックしていただければ、直接本誌のページに飛びます。同じく [Journal of Rural Problems](#) で検索し、"[Journal of Rural Problems - J-STAGE \(Home\)](#)"をクリックすれば、本誌の J-Stage 英語版サイトにアクセスできます。
- 2) 地域農林経済学会のホームページからは、「学会誌」→「農林業問題研究 J-STAGE」に進み、さらに「農林業問題研究」をクリックすると、J-Stage の本誌サイトに飛ぶことができます。
- 3) 「J-Stage」で検索し、J-STAGE のメインページにアクセスします。「誌名」で「農林業問題研究」を検索していただければ、簡単に『農林業問題研究』に辿り着きます。(J-STAGE は独立行政法人科学技術振興機構 (JST) が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム」のサイトです)。

(2) 大会に関するお知らせ

第66回地域農林経済学会大会(近畿大学)が間近に迫ってきました。次頁以下に、大会日程と大会個別報告プログラム一覧を添付しておりますのでご参照ください。また学会HPでは大会ポスター、個

別報告会場・報告題目一覧 Presentation List のほか、報告要旨集も Up しております。大会前に、参加予定の個別報告については是非お目通し頂ければと思います。

★編集後記

ニュースレター第8号をお届けします。多忙な折、原稿をお寄せいただいた方に改めてお礼申し上げます。本ニュースレターに関するご意見、ご提案、また掲載を希望される事柄などがございましたら、組織・広報担当常任理事(足立芳宏 yadachi@kais.kyoto-u.ac.jp、または大石和男 oishi@adm.kais.kyoto-u.ac.jp)までご一報下さい。(A)

地域農林経済学会ニュースレター No.8

発行日：2016年9月30日

発行者：地域農林経済学会常任理事会(組織・広報担当)

第 66 回 地域農林経済学会大会（近畿大学） 日程

【第 1 日】 10 月 28 日（金）特別シンポジウム（BLOSSOM CAFÉ 14：00～16：30）

「食農教育と大学の地域貢献」

【第 2 日】 10 月 29 日（土）大会講演および個別報告（B 号館講義室）

○個別報告① [9:30～14:30]（B 号館教室）（受付開始 8:30）

○会長挨拶 [14:45～14:50]（B-101 教室）

○大会パネ
ディスカッション [14:50～16:45]（B-101 教室）

「『地方創生』時代における大学の研究・教育・地域貢献」

○総会 [17:00～18:00]（B-101 教室）

○懇親会 [18:40～20:30]（11 月ホール・Cafeteria November）

【第 3 日】 10 月 30 日（日）個別報告（B 号館講義室）

○個別報告② [9:30～12:30]（B 号館教室）

大会個別報告プログラム

10 月 29 日（土）（第 1 会場～第 3 会場）（※は個別報告優秀賞対象報告）

報告時間	第1会場(B-404教室)			第2会場(B-505教室)			第3会場(B-504教室)		
	座長	報告順	報告題目・筆頭報告者	座長	報告順	報告題目・筆頭報告者	座長	報告順	報告題目・筆頭報告者
9:30～10:00	山口 道利 (龍谷大学)	1-1	特定保健用食品に関する需要要因の定量分析 — スキャンデータをを用いた無糖茶製品の分析 — 家中優海他 ※ (北海道大学大学院)	辻 和良 (和歌山大学食農総合研究所)	2-1	農業経営におけるリレーションシップの管理に関する考察—「つき合い」取引の経済性と規定性を視点として— 木原奈穂子 ※ (京都大学大学院)	河村 律子 (立命館大学)	3-1	高知県における集落活動センターの形成と変容の考察—制度設計と成立規定要因の解析から— 大崎優 ※ (高知大学大学院)
10:00～10:30		1-2	スカイツリー周辺地域における飲食店の集客要因分析 近藤莉夏子他 ※ (杉並区)		2-2	観光農園における人的資源管理に関する研究 上田一輝他 ※ (鳥取大学大学院)		3-2	地域おこし協力隊員の定住意向と地域コミットメント 柴崎浩平他 ※ (神戸大学大学院)
10:30～11:00		1-3	社会貢献型農産物の商品属性に対する消費者の認識—滋賀県の「環境こだわり米」を事例に— 山野薫 ※ (京都大学大学院)		2-3	先進酒造好適米産地の維持・発展要因と課題—兵庫みらい農協を事例として— 鈴木淳他 ※ (神戸大学大学院)		3-3	Factors of Urban-rural Migration and Socio-economic Condition of I-turban Migrants in Rural Japan OBIKWELU FAITH EKENE他 ※ (GRADUATE SCHOOL OF AGRICULTURE, KINDAI UNIVERSITY)
11:00～11:30	慎一 (京都大学)	1-4	SNS形式グループインタビューによる生野菜・サラダの消費動機 の解明 矢野佑樹他 ※ (千葉大学)	中村 貴子 (京都府立大学)	2-4	地域固有農産物の開発プロセスと要点—大和伝統野菜「結崎ネブカ」を事例として— 國吉賢吾他 ※ (神戸大学大学院)	北海道 農業研究センター 美紀	3-4	高齢者の買物環境と生活満足度—東京都多摩ニュータウンを対象として— 佐藤龍一他 ※ (農林水産省)
11:30～12:00		1-5	A Comparison of Promotion Strategies of Sensory Education between Japan, France and Italy: Suggestion for a Shokuiku (Food Education) Movement in Japan 上田遥 ※ (京都大学大学院)		2-5	水田作新規参入者の販路拡大過程に関する—考察—ネットワーク資源を視点として— 長谷祐 ※ (京都大学)		3-5	中山間地域の就労支援施設における財務情報を用いた地域貢献度の計測—社会福祉法人望の丘ワークセンターを対象として— 小西理絵他 ※ (岡山大学大学院)

10月29日(土)(第1会場～第3会場)(続き)

13:00～ 13:30	片岡 美喜(高崎経済大学)	1-6	中山間地域振興における維持可能な地域活動への来訪者評価 亀山宏 (香川大学)	西千田 雅之(農研機構・ 日本農業研究センター)	2-6	大規模肉用牛繁殖経営のための分業・連携による飼料生産・供給システムの形成条件 吉川好文 (農研機構・九州沖縄農業研究センター)	土田 志郎(東京農業大学)	3-6	一般就労を目的とした農福連携事業の推進に関する一考察 植田 剛司 (京都大学大学院)
13:30～ 14:00		1-7	農林業・農山村を非農学部生が体験することによる中期的変化 田中淳志 (農林水産政策研究所)		2-7	養豚経営におけるエコフィード導入の展開過程と課題 朝倉裕貴 (農業開発研修センター)		3-7	静岡県における生食用タマネギ機械化一貫体系の開発と大規模経営モデルの試算 山崎成浩 (静岡県農林技術研究所)
14:00～ 14:30		1-8	食文化観光を活用した地域と大学の連携に関する一考察 片上敏喜 (日本大学)					3-8	農業経営における組織設計の動向に関する分析 武藤幸雄 (香川大学)

10月29日(土)(第4会場～第5会場)(※は個別報告優秀賞対象報告)

報告時間	座長	第4会場(B-503教室)		第5会場(B-704教室)	
		報告順	報告題目・筆頭報告者	報告順	報告題目・筆頭報告者
9:30～ 10:00	亀山 宏(香川大学)	4-1	Willingness to Pay for Local Rice in Cameroon: Evidence from Experimental Auctions Nina Takashino (Tohoku University) ※	5-1	農業の基本法から見た日韓の食料・農業・農村に対する政策的スタンスの日韓比較—テキストマイニングを用いて— ※
10:00～ 10:30		4-2	The Interactions of people and non-timber forest products: Implication from Phnom Prich Wildlife Sanctuary, Eastern Plain Landscape of Cambodia CHOU Phanith ※ (Graduate School of International Development of Nagoya University)	5-2	中国畜産龍頭企業における肉牛調達に関する研究 ※
10:30～ 11:00	竹蔵 一紀(龍谷大学)	4-3	日中韓FTAによる温室効果ガス排出量変化のシミュレーション分析 ※	5-3	台湾における食品安全問題と日系外食企業の対応—台湾ファストフードチェーンA社の契約農場制度を中心に—
11:00～ 11:30		4-4	バイオメジャーの特許権が農業者の種子利用に与える影響に関する経済的分析—遺伝子組み換え種子に着目して— ※	5-4	気温過程に対するビール支出比率の反応の非対称性—気温上昇時と下降時の差異—
11:30～ 12:00		4-5	米国中西部における遺伝子組み換え(GM)作物の種子供給システムの構造と機能	5-5	中国小売業の商慣習とメーカーの対応策—C社の事例を中心に—
			坂本清彦他 (京都大学)		左愛他 (桃山学院大学大学院)

13:00～ 13:30	飯國 芳明(高知大学)	4-6	東京電力福島第一原子力発電所事故後の農産物流通に関する事業者調査 関谷直也他 (東京大学)	小野 雅之(神戸大学)	5-6	伝統的地域産品と地域との「結びつきの品質」の実態—地理的表示法への申請・登録産品を事例に—
13:30～ 14:00		4-7	東京電力福島第一原子力発電所事故後の福島県における学校給食の地産地消をめぐる構造的課題 則藤孝志他 (福島大学)		5-7	地方都市福知山市における企業の食育活動とその効果—平成27年度農林水産省消費者ニーズ対応型食育活動モデル事業の経験に基づいて— 河村能夫他 (龍谷大学・京都府立農業大学校)
14:00～ 14:30		4-8	耕作放棄地利用を想定した風力発電の費用と便益の推計 伊藤寛幸他 (株)ルーラルエンジニア)		5-8	農産物ブランドに対する購買行動の規定要因—「地域ブランド戦略サーベイ2013」の一般化積率法による分析— 八木浩平他 (農林水産政策研究所)

10月30日(日)(第1会場～第3会場)

報告時間	第1会場(B-404教室)			第2会場(B-505教室)			第3会場(B-504教室)		
	座長	報告順	報告題目・筆頭報告者	座長	報告順	報告題目・筆頭報告者	座長	報告順	報告題目・筆頭報告者
9:30～10:00	石田正昭(龍谷大学)		グループ報告① テーマ:「農村女性のワーク・ライフ・バランス」	北川太一(福井県立大学)		グループ報告② テーマ:「農業・農村のガバナンス論ー再編と機能化ー」	井上憲一(島根大学)	3-9	稲作経営の経営展開の方向性ー岡山県の事例からー 河田貞宏 (岡山県農林水産総合センター農業研究所)
10:00～10:30		1-9	1)近年における女性農業者支援施策に関する一考察 納口のり子(筑波大学)		2-9	1)コミュニティの食料安全保障と地域農業ガバナンスー食料品アクセス問題への対応にみるー 片岡美喜(高崎経済大学)		3-10	中山間地域水稲作における農地集積の実態と展望ー四国の「峡谷型中山間地域」を事例としてー 松岡淳他 (愛媛大学)
10:30～11:00		1-10	2)農村女性問題の数量的アプローチに関する一考察 仙田徹志他(京都大学)		2-10	2)非農家の離農状況別みる農業農村整備事業への評価構造 山下良平(石川県立大学)	(京都府立明宏大学)	3-11	北関東二毛作地帯における飼料用水稲生産の諸形態と継続要件 小川真如 (早稲田大学大学院)
11:00～11:30		1-11	3)JA女性組織部員の意識と行動に関するアンケート調査分析 小川理恵他(一般社団法人JC総研)		2-11	3)ドイツ農村女性連盟の支部活動に関する考察ーゲッティンゲン地区支部を事例としてー 伊庭治彦(京都大学)		3-12	大規模水田経営における果樹作導入の実態と意義ー北陸地域の事例ー 徳田博美他 (三重大学)
11:30～12:00	岩崎正弥(愛知大学)	1-13	畜産経営における体験教育サービスの意義ー女性農業者のキャリア形成に着目してー 原田英美	横溝功(岡山大学)	2-13	わが国におけるアグロフォレストリー成立の可能性と条件 千田雅之 (農研機構・西日本農業研究センター)	安藤和雄(京都大学)	3-13	タイにおける輸出米の調製加工の現状と課題ー精米工場と再掲精工場の経済的な機能と役割ー 佐々木智他 (広島大学大学院・株式会社サタケ)
12:00～12:30		1-14	戦後東北地方における生活改善普及事業の推進方策ー宮城県を中心にー 中間由紀子他 (島根大学)		2-14	養蜂業者における初期技術の形成に関する一考察ー山形県の養蜂業者を事例としてー 米澤大真他 (真室川町)			

10月30日(日)(第4会場～第5会場)

報告時間	第4会場(B-503教室)			第5会場(B-704教室)		
	座長	報告順	報告題目・筆頭報告者	座長	報告順	報告題目・筆頭報告者
9:30～10:00	鶴田格(近畿大学)	4-9	ケニア西部、アヘロ地域における稲作経営と灌漑稲作支援の波及効果 一條洋子他 (東京農工大学)	基基(東京農工大学)	5-9	The dependence structure among international crops market and oil market: Markov switching model Mogotlane Matsobane (Graduate School of Kagawa University)
10:00～10:30		4-10	Determinants of Trade-Off's Perception in Community-Based Natural Resource Management: A Case Study of Tonle Sap Lake, Cambodia Vong Rylida (Graduate School of International Development, Nagoya University)		5-10	農林業センサス個票のパネルデータ化による農業動向予測の可能性ーマルコフモデルの適用ー 安武正史他 (農研機構・中央農業研究センター)
10:30～11:00	鬼塚健一郎(京都大学)	4-11	伝統的な農業を基軸とした観光化に関する一考察ーベトナム中部ホイアン市Tra Que村を事例にー 青木美紗 (奈良女子大学)	三田村けんいち(近畿大学)	5-11	大豆作の生産性と技術効率の収束ーパネル単位根検定による計量的分析ー 中川雅嗣 (神戸大学/近畿農政局)
11:00～11:30		4-12	官民連携によるコミュニティ・ビジネスの創造と発展過程 小林康志 (京都大学大学院)		5-12	兼業農家は離農するのかー間接効用関数を用いた分析ー 北島浩三 (名古屋大学大学院)
11:30～12:00		4-13	農家民宿の普及・展開に関する一考察ー農家民宿経営世帯へのアンケート・ヒアリング調査を基にー 坊安恵 (京都大学大学院)			